

差出人: NewsMail - metaFrontier.jp, LLC <newsmail@metafrontier.jp>  
送信日時: 2013年12月17日火曜日 0:31  
宛先: info@metafrontier.jp  
件名: メタフロンティア ニュースメール Vol.21 (2013/12/17)

各位

いつもお世話になっております。  
メタフロンティア合同会社の柴田賀昭です。

弊社が関わる業界団体の活動に関し、ファイルベース関連のトピックやセミナー情報、  
その他各種ご案内などを不定期にてお届けいたします。

本メールの転送はご自由です。まわりにご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、  
どうぞ遠慮なくご共有ください。

また配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作を  
して下さい(宛先: newsmail@metafrontier.jp)。その際、一行目に「配信停止」と記入  
していただければ自動的に削除されますので、どうぞ遠慮なく。

---

◆目次

- 柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」
- AMWA(Advanced Media Workflow Association) 発
- EBU(European Broadcasting Union) 発
- FIMS(Framework for Interoperable Media Systems) 発
- SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers) 発
- メタフロンティアからのお知らせ
- その他

---

◆柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」

- 第9回 ” 偽装、やらせ、あるいは演出？”

今年も残すところ少しとなりましたが、今年大きな話題を集めた事件にレストランや  
ホテルの食材虚偽表示がありました。消費者庁が12月9日に発表したところによれば、  
23の業界団体に加盟するホテルや飲食店などで総勢307の事業者から報告があったとの  
こと[1]。まあ超一流どころを始めとしてここまで多くの同業者が申告したとなれば、  
もし少しでも誤解を招きそうなものあれば(自社だけが注目されることのない)まさに  
このタイミングで公表してしまえといった思惑があっただろうことは想像に難く  
ありません。

ただそれぞれの中身を見てみると、例えば安物のロブスターを「伊勢エビ」と偽って  
出したり、くず肉を固めて作った成形肉を「牛フィレ肉」として提供したりするのは  
言語道断ですが、今回初めて知った微妙な話も多々ありました。

例えばビーフステーキというのは一枚肉でなければならないということは今回初めて  
知りましたが、実は景品表示法での摘発事例があったのですね[2]。でも「サイコロ  
ステーキ」と呼ばれるものの多くが成形肉というのは半ば常識と聞いていたので、  
それが今後、どのように呼ばれていくことになるのか興味津々です。

また「鮮魚」という言葉も微妙なところです。某ホテルは冷凍魚を使用した刺し身の  
盛り合わせなどを「鮮魚」と表示して提供していたとの報道がありました[3]が、そもそも  
遠洋漁業で水揚げされるマグロなどは、まさに輸送時の鮮度を保つために冷凍している訳  
であって、もし替わりに大量のマグロを小さな生簀の中で活かしたままで運んだとしても  
それで本当に鮮度を保っていると言えるのかと[4]。

もっと驚いたのがいわゆるエビチリに使う「芝エビ」でした。そもそも芝エビって小型のエビ一般を示すものと思っていましたが何と固有名詞だったのですね。そしてその代替として用いられたのが今回初めて知った「バナメイエビ」。ただここで悩ましいのは、それらは価格的には大差なく(ある調査によれば、芝エビがキロ当たり 1680 円でバナメイエビが 1666 円[5])。尤もバナメイエビは芝エビの半額程度との話もありますが、伊勢エビのキロ単価 5000 円(が、最近では急激に需要が増えて 12000 円に暴騰したとか[6])などと比べると些細なものです)、そして何より驚いたのは、今や美味しいエビの代名詞でもあるあのプリプリ感って、まさにバナメイエビの特徴だったとのこと[5]。実際、それらを食べ比べたところ少なくとも「エビのチリソース和え」にはバナメイエビが合うようでして、料理人自らが「正直、バナメイの方が美味しかった。客に出す料理としてはどちらがよかったのか、思いは複雑。」と語られる[7]に至っては、これをどう捉えればよいのか悩ましいところです。

ただ言えそうなのは、それが「芝エビのチリソース和え」あるいは単に「エビチリソース」と表示されていても殆ど気にしなかったと思うのですが、もしそれが(それまで全く知らなかった)「バナメイエビのチリソース和え」と表示されていると、やはり何だか怪しいといった先入観が先立ってそんなに美味しくはいただけなかったのでは、と。

さて、なぜこのような話を始めたかといいますと、偶々この夏過ぎにテレビマンユニオンの今野勉氏が書かれた「テレビの嘘を見破る」という本[8]に眼を通す機会があり、その中にあった、特にドキュメンタリー制作における「ヤラセ」、「再現」そして「演出」について色々と考えさせることがあったからです。

極論を言えば、そもそもドキュメンタリーと言えど、目前の風景の一部を意図を持ってカメラで“切りとった”瞬間に、それは「事実」ではなくなります。素晴らしい風景の映像番組を見て期待を膨らませて現地を訪れたものの、実際にそれを肉眼で見るとがっかりなことはよくある話(もちろん、その逆の場合もあるでしょうが)。そしてこれは、映像技術がどれだけ進歩しようとも、決して克服できることのない本質的な限界であると言えます。

他方で、一般にヒトは外界の情報の 80%以上を目から得ているとのこと[9]で、あることの説明をどれだけ聴こうともまさに「百聞は一見に如かず」、目の前に展開されたその映像には決してかないません。そしてその意味では、映像コンテンツである以上、「再現」は最大の武器である筈です。

そして再現シーンに「再現」と明記することは昨今のコンプライアンス的に言えば必要なのでしょうが、それが単なる映像記録ならば兎も角、何かしらのストーリー性をもったものの場合、ましてやそれを知的好奇心を刺激するある種のエンターテイメントとして見せるのであれば、その辺りのルールを厳密に適用することが逆に白けさせる結果となり、その作品性を毀損してしまうのではといった懸念もあります。

もちろんウソはいけません。と言いつつ、しかし少なくとも伝えようとするメインテーマ自体にウソ偽りがなければ、それを伝えるための手段としての枝葉末節の部分にまで厳格な姿勢を求めるのが果たして本当に正しいことなのかと思ってしまう訳です。

「伊勢エビのチリソース」として数千円も出して注文したものにバナメイエビが使われていれば、それはさすがに詐欺でしょう。しかし「芝エビのチリソース」として価格的にも変わらず、ましてよりプリプリ感があるバナメイエビを使っていたことが果たして本当に非難されるべきことなのか。尤も今回の事件を切っ掛けにバナメイエビの株も上がりましたので、今後は「バナメイエビのチリソース」と書かれていても躊躇せず美味しくいただけそうというのは、怪我の功名かも知れません。

[1] <http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20131209-0YT1T00507.htm>

[2] <http://www.caa.go.jp/representation/keihyo/kouhyou/05.11/05111502.html>

[3] [http://sankei.jp.msn.com/west/west\\_affairs/news/131106/waf13110610180010-n1.htm](http://sankei.jp.msn.com/west/west_affairs/news/131106/waf13110610180010-n1.htm)

[4] <http://zatsutama.net/archives/34841375.html>

[5] <http://www.asahi.com/articles/TKY201311200572.html>

[6] [http://harvestandharvest.blogspot.jp/2013/11/blog-post\\_262.html](http://harvestandharvest.blogspot.jp/2013/11/blog-post_262.html)

- [7] <http://www.asahi.com/articles/TKY201311290003.html>
- [8] <http://www.shinchosha.co.jp/book/610088/>
- [9] <http://www2s.biglobe.ne.jp/~ganko/kikaku/polytech/1-5.html>

◆AMWA(Advanced Media Workflow Association) 発

- 番組交換向け MXF 応用規格 AS-11 の北米向け派生版である AS-11-NA の策定が、CBC/Radio Canada から提案されました。
- なお、上記へのアクセスには LinkedIn へのアカウント登録(無料)が必要です。

[http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5811448983565934596&gid=3089778&trk=eml-anet\\_dig-b\\_nd-pst\\_ttle-cn&fromEmail=&ut=1bRhk0yWs3x601](http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5811448983565934596&gid=3089778&trk=eml-anet_dig-b_nd-pst_ttle-cn&fromEmail=&ut=1bRhk0yWs3x601)

- AMWA Member Newsletter 2013 年 12 月号が発行されました。
- <http://us7.campaign-archive1.com/?u=8da587f1beeda2c1521c2e9b3&id=8f8a9fb832&e=516a2e92a3>

◆EBU(European Broadcasting Union) 発

- EBU Tech-i 第 18 号(2013 年 12 月)が発行されました。
- [http://tech.ebu.ch/docs/tech-i/ebu\\_tech-i\\_018.pdf](http://tech.ebu.ch/docs/tech-i/ebu_tech-i_018.pdf)
- 来年 1/28(火)-30(木)の日程で Geneva で開催予定の“Production Technology Seminar (PTS2014)”が、参加者の募集を開始しました。
- [http://tech.ebu.ch/events/pts2014?newsletter\\_december2013](http://tech.ebu.ch/events/pts2014?newsletter_december2013)  
(プログラム)
- [http://tech.ebu.ch/docs/events/production14/pts2014\\_programme\\_web.pdf](http://tech.ebu.ch/docs/events/production14/pts2014_programme_web.pdf)
- David Wood 氏による“Why quality matters in media production”なるタイトルの動画が公開されました。
- [http://www.youtube.com/watch?v=exyZzbcunK0&feature=youtu.be&newsletter\\_december2013](http://www.youtube.com/watch?v=exyZzbcunK0&feature=youtu.be&newsletter_december2013)
- “Future Network and Storage Systems”(FNS)なるタイトルの新たな活動の開始に先立ち、来年 1/21(火)の日程で Munich にてミニワークショップが開催されます。
- [http://tech.ebu.ch/FNS?newsletter\\_december2013](http://tech.ebu.ch/FNS?newsletter_december2013)
- EBU Technology & Innovation がこれまでに主催した FORECAST, DevCon, UHDTV Workshop でのプレゼン動画が公開されました。
- [http://tech.ebu.ch/videos?newsletter\\_december2013](http://tech.ebu.ch/videos?newsletter_december2013)
- 英国の映像制作会社で構成される UK Screen が、QC 及びワークフローの自動化をテーマとしたイベントを開催しました。
- [http://tech.ebu.ch/news/uk-post-production-houses-unite-on-integ-25nov13?newsletter\\_december2013](http://tech.ebu.ch/news/uk-post-production-houses-unite-on-integ-25nov13?newsletter_december2013)

◆FIMS(Framework for Interoperable Media Systems) 発

- “FIMS, SOA and Media Applications: How modern software systems can serve media businesses”なるタイトルの White Paper が発行されました。
- [http://www.amwa.tv/downloads/whitepapers/AMWA-WP-SOA\\_for\\_broadcasters-web.pdf](http://www.amwa.tv/downloads/whitepapers/AMWA-WP-SOA_for_broadcasters-web.pdf)

◆SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers) 発

- SMPTE Monthly Newsletter 2013 年 11 月号が発行されました。

[http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001yFZRqoHoI\\_CMh\\_uRLQkyvsIogIRZgMHZyBwsMYN12266zLdbNs6npXBzLAmNiXBqV20Avm4m2JKiKxNPRRdlz9yI7a5W10IZ0IBOPdqinyP5kgINwa6mKvbwk80XY3IF0fKHJYGQ3NwNiH4-Vec\\_XkBHGgRb8lwhyYkt6X2sp0uvPBgoMovWoCV-IMKndmkSbo5uCvBnRahzXRM3bDViG6l1gTRhAEeaaFhKKdePjr\\_hritWz4LvDPreW\\_-2g7SD7o4YyVHzSVHQU7gt0hirOPNq03rDIwsYiaM5gFyRtQby21Blrc7ASDE-yWzIHwRLzkAoJefNmFutF6V0pg7leA%3D%3D](http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001yFZRqoHoI_CMh_uRLQkyvsIogIRZgMHZyBwsMYN12266zLdbNs6npXBzLAmNiXBqV20Avm4m2JKiKxNPRRdlz9yI7a5W10IZ0IBOPdqinyP5kgINwa6mKvbwk80XY3IF0fKHJYGQ3NwNiH4-Vec_XkBHGgRb8lwhyYkt6X2sp0uvPBgoMovWoCV-IMKndmkSbo5uCvBnRahzXRM3bDViG6l1gTRhAEeaaFhKKdePjr_hritWz4LvDPreW_-2g7SD7o4YyVHzSVHQU7gt0hirOPNq03rDIwsYiaM5gFyRtQby21Blrc7ASDE-yWzIHwRLzkAoJefNmFutF6V0pg7leA%3D%3D)

- UHDTV Ecosystem Study Group の調査レポートが公開されました。

[https://www.smpte.org/uhdtv-report?utm\\_source=SMPTE+MONTHLY+-+Nov+2013&utm\\_campaign=Monthly&utm\\_medium=email](https://www.smpte.org/uhdtv-report?utm_source=SMPTE+MONTHLY+-+Nov+2013&utm_campaign=Monthly&utm_medium=email)

- 2014-2015年の標準化担当VPに、Alan Lamshead氏が就任することとなりました。

<https://smpte.org/news-events/news-releases/smpte-announces-new-officers-and-governors-elected-serve-2014-and-2015>

- SMPTE Newswatch 2013年11月号が発行されました。

[http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001xPdLKy4-WIxTebQo3QLUuU6W7DFgFvmam81tn24jI9D90ok22yFgvbShF40uYHiRCrJx00jIM3x0pKc6L0tk4fD-XOZTomcC9J-085A\\_Ru\\_0tWQv6ZcUzptoX0pAHuyJxohMxzXE-Is9rw1rJozEI\\_Vbc5mkf6FJrYTWLnMdDdGXm4ijpFf1TP90Xpykj9iNChBlSNSJAm708GdJVerEvAimM7RmAjz1Rq2Ino6ay-yg9nr\\_jiotEgojTwJfAN\\_1dGyhKNwRdSE8UXKt07qppxLGSdN9f1\\_5iWheuIn9QSYWOnyK\\_yoECNIQRqaUOLkVcTA65dtLMatJOGYdbqibVw%3D%3D](http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001xPdLKy4-WIxTebQo3QLUuU6W7DFgFvmam81tn24jI9D90ok22yFgvbShF40uYHiRCrJx00jIM3x0pKc6L0tk4fD-XOZTomcC9J-085A_Ru_0tWQv6ZcUzptoX0pAHuyJxohMxzXE-Is9rw1rJozEI_Vbc5mkf6FJrYTWLnMdDdGXm4ijpFf1TP90Xpykj9iNChBlSNSJAm708GdJVerEvAimM7RmAjz1Rq2Ino6ay-yg9nr_jiotEgojTwJfAN_1dGyhKNwRdSE8UXKt07qppxLGSdN9f1_5iWheuIn9QSYWOnyK_yoECNIQRqaUOLkVcTA65dtLMatJOGYdbqibVw%3D%3D)

- “The All IT Media Facility: Enabling Technologies”なるタイトルのオンラインセミナーが、12/20(金) 3:00(日本時間)から開催されます。

<http://events.r20.constantcontact.com/register/event?oeidk=a07e8jyb0dc302cb0cf&llr=iwnzoxjab>

#### ◆その他

- ATSCがInteractive TV機能を取り込んだATSC 2.0の最終ドラフトを発行しました。

[http://www.tvtechnology.com/news/0086/atsc-issues-interactive-tv-candidate-standard/222562?goback=%2Egde\\_71716\\_member\\_5813719720305647616#%21](http://www.tvtechnology.com/news/0086/atsc-issues-interactive-tv-candidate-standard/222562?goback=%2Egde_71716_member_5813719720305647616#%21)

- Mr. MXF こと Bruce Devlin 氏 (AmberFin CTO) による無料オンラインセミナー “Bruce’s Shorts - Tip of the Week...” (日本語字幕付) が、好評配信中です。  
<http://www.amberfin.com/shorts-jp/>

#### ◆メタフロンティアからのお知らせ

(新着情報: <http://metafrontier.jp>)

- 12/9(月)~13(金)にて開催された SMPTE 標準化委員会 Atlanta 会合において、柴田賀昭が、SMPTE UMID 応用プロジェクト (UMID 応用 SG 及び RP205 改定 AHG) の活動報告をおこないました。  
<http://metafrontier.jp/drupal/sites/default/files/info/umidAppReport131212.pdf>

- 「この戦略製品・サービスを特許で守るにはどうすればいいのだろうか？」とお悩みの方はいらっしゃいませんか？また、「出願はしたもののその後の対応が不適切で拒絶査定を受けてしまった。」とか、「何とか特許は取ったものの競合に簡単に回避され、結局はカネの無駄に終わってしまった。」なんて悩みもしばしば聞かれるところです。

モノづくりによる差異化が厳しくなる中、新たなビジネスの展開において特許制度の戦略的な活用がますます重要になってきました。ここで戦略的な活用とは、単に思い付きのアイデアを特許出願することではなく、そのビジネスの展開においてその特許の目的や役割ををきちんと見定め、最小の費用で最大の効果を狙うということです。

すなわち、まずはその製品・サービスのどの部分が特許で保護できそうかといった検討から始め、次に、特許出願とは技術情報を公にすることであり、またその権利化までには相当の時間と費用が掛かることを踏まえ、それは本当に特許を取得すべき技術内容かどうかを様々な側面からしっかりと検討する必要があります。

そして一旦出願すると決めたならば、特許庁の厳格な審査に耐えて権利化を獲得すべく、十分な先行技術調査のもと先行技術に対する優位性を明確に訴求する必要があります。

特許出願と言えは一般的には特許事務所の仕事と考えていませんか？もちろん最終的に特許を出願する時には弁理士への依頼が必要です。しかし彼らの商売は御社に出願してもらって初めてナンボの世界、つまりそこには、必ずしも御社のビジネス、製品戦略に最適の助言ができるとは限らない構造的な問題があります。

さらに技術分野が細分化、深化する中、ひとりの人間がカバーできる範囲には自ずから限界がありますので、必ずしも御社の発明内容を本当に深く理解できる

弁理士に担当してもらえとは限りませんし、ましてや御社のビジネス戦略上の選択肢のひとつとしての知財活用のあり方などは、一般的に彼らの専門領域を超えた範疇の話となります。

最近、前職において40件以上の出願をおこない、その後知財部署に異動してその3/4以上の権利化を達成した経験[1]を見込んでいただいたクライアント様から、特許出願に関するご相談を承り対応して参りました。ここでは、単に特許出願のみならず、自らの経験に基づいた国際標準化活動なども勘案したビジネス戦略上の活用方法などについてもアドバイスをさせていただきました。

私どもは弁理士ではございませんが、前職にてビジネス戦略における特許制度の活用方法を様々な側面から深く調査研究した経験があります。さらに自ら発明者として多数の特許を出願し、また知財担当としてそれらの多くを権利化した実績があります。

ただ私どもの専門分野はあくまで映像技術あるいはIT/マルチメディアですからそれ以外の、例えば化学や医療関連といった分野では門外漢です。

つきましては、もし御社で特許に関するお悩みや相談事などがございましたら、是非ご支援をさせていただきたく、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお声掛け下さい。

[1] これまでに柴田賀昭が出願、取得した特許の一覧です。

<http://metafrontier.jp/drupal/ja/about/members/patents>

- ファイルベースワークフローを導入したものの「こんな筈ではなかった。」とか「何とか使ってはいるものの完全なブラックボックス状態で、万一の時が不安。」などといったことでお困りのユーザ様はいらっしゃいませんか？  
特にこれまで親しんできた技術トレンドとは“非連続”なITベース技術が業界に急速に広がるにつれ、ユーザ様とベンダ様との会話がうまくかみ合わず、関係を損ねてしまったといったお話もちらほらと伺っております。  
ファイルベース技術は今も日々改良が進められているものの、残念ながら現時点においても、(ベンダ様を問わず)ユーザ様のあらゆる要求を完全に満足できるようなソリューションが提供可能な技術レベルには達しておりません。  
従ってファイルベースワークフローの導入を本当に成功させるためには、ユーザ様、ベンダ様が互いの深い信頼関係の元、技術とコストの兼ね合いから、その時点での「ベストソリューション」を互いに切磋琢磨しながら探っていくといった姿勢こそが最も大切なことであります。  
弊社ではファイルベースに関する豊富な技術知識を元に、ベンダニュートラルな立場から、ユーザ様とベンダ様が相互理解をより深めて「ベストソリューション」を見出すための“技術通訳”といったお手伝いをさせていただきたいと考えております。  
つきましては、何かお困りのことがございましたら、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお声掛け下さい。
- MXF (Material Exchange Format) の出張セミナー、引き続き好評提供中です。  
“MXF は初めて”という方々を対象にMXF が絡むビジネス判断をおこなう上で必要とされるMXF技術の基本知識の習得を目的とした「基礎編」と、これから本格的にSMPTEのMXF関連規格書を読みこなしていく方々を対象に、その前準備として必要とされるMXF技術の全体像の把握を目的とした「応用編」をベースに、御社のニーズに応じたかたちにカスタマイズして提供させていただきます。  
その他、ご要望によりXML (eXtensible Markup Language) の基本やFIMS等の技術セミナーにも柔軟に対応させていただきますので、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお問合せ下さい。

今回のご紹介は以上です。

ここまでお読み下さり、ありがとうございました。

---

本メールは、弊社スタッフがこれまでに名刺交換させていただいた方や、弊社HPからのお問い合わせの際、アドレスをご登録いただいた方などにお送りしております。

配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作をして下さい(宛先: [newsmail@metafrontier.jp](mailto:newsmail@metafrontier.jp))。その際、一行目に「配信停止」と記入していただければ自動的に削除されますので、どうぞご遠慮なく。

また本メールを転送などで受取られた方で、今後の受信を希望される場合は、一行目に「配信希望」とご記入の上、お名前、会社名(あるいは所属組織名)を添えて下記宛先にご連絡いただければ、次回から送信させていただきます。

また本メールに関するご意見、ご感想などがございましたら、こちらも下記宛先にお送り下さい

(宛先: request4newsmail@metafrontier.jp)。

編集/発行 : メタフロンティア合同会社 柴田賀昭

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川 1-13-12 アーバンビル 6F

URL: [www.metafrontier.jp](http://www.metafrontier.jp)

Copyright (C) 2012-2013 metaFrontier.jp, LLC. All Rights Reserved

---